

## 京都芸術デザイン専門学校入学式祝辞

2014年4月5日

尾池和夫

本日、京都芸術デザイン専門学校に入学された230名の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご家族の皆さま、こころからお祝い申し上げます。学校法人瓜生山学園には、皆さんが入学した京都芸術デザイン専門学校の他に、京都文化日本語学校があり、京都造形芸術大学があり、こども芸術大学があります。つまり、学園には今、3歳から、94歳まで、約8500名の学生がいるという、そういう学園に皆さんは入学されました。

また、皆さんが入学された専門学校のある京都は、1300年に及ぶ歴史を持つ大きな都市であり、長い間、日本の都であった悠久の歴史の中で、今も発展を続けているという世界的に見ても珍しい都市です。

京都盆地の歴史は、ほぼ100万年前から具体的にたどることができます。そのころ今の京都盆地の原型ができ始め、60万年前、今の伊豆半島が南から移動してきて本州に衝突して、今の列島の変動のパターンになりました。隆起した東山からは、浸食で土砂が流れて扇状地を作っています。とくに皆さんがこれから通う学校のある北白川扇状地は、その中でも規模の大きな扇状地で、この専門学校の少し南にその尾根があります。したがって白川通りは、専門学校の前の部分では北に向かって下がっています。そのために、瓜生山学園の大階段は、真ん中から上ると59段、北側から昇ると60段、南端から昇ると58段ということになっているのです。

今日このあとで歌っていただく学園歌「59段の架け橋」のタイトルとなった大階段の地形が、そのような京都盆地の運動で生まれた地形で、その背後には、比叡山と大文字山との間の滋賀越えの峠となった花崗岩の貫入という歴史があります。そのような大地のパワーが、皆さんのこれから活動する瓜生山のキャンパスを支えています。

京都盆地の地下には豊富な地下水があって、それを生かして茶の湯が生まれ、湯葉や豆腐が生まれ、京料理や酒が発達し、さまざまの都の伝統文化を生み出しました。京都には、さまざまの優れた伝統の技を持つ職人たちがいて、伝統産業を支えています。そのような文化の中であって、この専門学校は、企業の求めるデザインを実際に完成させる目標を置き、デザインオフィスとして活動する場所です。京都造形芸術大学のキャンパスも、皆さんがチャレンジするために活用してください。

例えば、今、人間館のエントランスラウンジでは、企画展「杉本博司+京職人：メダカの学校」が開催されています。現代美術家の杉本博司さんのディレクションによって、京都の職人、中川周士（中川木工芸 比良工房）さん、八木隆裕（開化堂）さんの、職人の技によって構成される空間を見ていただけます。

皆さんのこれからの仕事は、失敗を恐れることなく、大いにチャレンジすることです。将来、さらなるチャレンジを目指すときには、大学への3年次編入学の機会を利用してください。また将来、通信教育部も活用してください。学園生活では、サークル活動などの環境が整備されています。専攻コース間の連携による活動も行われます。そこでコミュニケーションの力を養ってください。

これから毎日、学食を利用するときには、59段の大階段を昇り、足腰を鍛えて、芸術とデザインを学び、しっかりと人生を設計して、さらに活躍できる就職を目指し、そのような学園生活を謳歌していただくようお願いして、瓜生山学園の仲間を代表しての、お祝いの言葉といたします。

ご入学、まことにめでとうございます。ありがとうございました。